

介護老人保健施設オアシス21

療養棟3階(認知専門棟)

症例概要 80代 男性 要介護度 2

病名：左大腿骨近位部(頸基部)骨折術後、褥瘡(右踵・両足背)、右大腿骨大転子部骨折術後、糖尿病、肺気腫、認知症、陳旧性胸腰椎椎体骨折

経過：ご自宅で妻と二人暮らしだったが転倒し、整形外科病院で大腿骨近位部骨折と診断され骨折合手術後、回復期リハビリテーション病院へリハビリ目的で転院。

整形外科病院入院中からあった褥瘡(右踵と両足背)は改善傾向にあったが、褥瘡があるままご自宅に退院されると喫煙や飲酒の習慣あり、褥瘡が悪化する可能性があり、褥瘡が治癒してからご自宅退院が望ましいと前院で説明され、令和7年4月に褥瘡治療と在宅復帰に向けた支援目的でオアシス21に入所。

内 容

入所当初より体力・耐久性の低下が続いており、朝食、昼食、夕食と午後のおやつの時間に車椅子乗車介助して離床する以外は臥床されて過ごすことが多く、徐々に離床時間の延長を図り、体力・耐久性の向上を支援していた。入所理由の1つである褥瘡はかなり改善され、自宅復帰に向け生活リハビリ支援を継続していた。

ご本人は寡黙な方で、療養生活の中で訴えは少ない状況だったが、入所当初より元気がない様子に職員が声掛けすると、ご本人の思い違いから奥様と関係性が悪くなつたと勘違いしている事がわかり、何をしてあげればよいか担当者で検討したところ、施設で開催している行事食の際、本人から「ラーメンライスかい?」と返答があり、会話の中でラーメンが好物であることが共有でき、面会で奥さんからお話を伺うと、「ラーメンならなんでも好きなくらい好物で一人で食べに歩いたり、インスタント麺も好きで自宅にいたときは毎日食べていた」とのこと、「①ご夫婦でラーメンを食べる時間を過ごしてもらいたい!」「②奥さんと楽しく過ごし誤解を無くしたい!」と介護、看護、ケアマネ、管理栄養士、STと協力し、支援を開始。体力のことを考慮してご自宅への外出は今は難しいと判断して、施設内の介護教室でご自宅で食べている雰囲気を提供する企画を立てました。

DMがあり、医師に企画を報告、奥さんとインスタントラーメン一袋を料理・カロリー範囲で、米飯と副菜を用意・その他、鍋やIHコンロやどんぶり、テーブルクロスと箸、レンゲ等調理器具や雰囲気作りの食器等もチームで協力し揃え、奥さんの調理の準備。当日にご本人の前でインスタントラーメンを奥さんに調理してもらい、ご夫婦で食べてもらうこととしました。

当日は介護教室に着きラーメンと書いた提灯を見て表情が明るくなり、奥さんの調理中に自宅にいたころは近所のラーメン屋に散髪後食べに行くのが習慣だったと思い出話も出るなど、昔を思い出されていま

した。

ラーメンが用意できると、どんぶりから勢いよく麺をすすぐれ食べ終わった頃にはすべての器がきれいに完食。今までみられなかった満面の笑顔での「ありがとう」に、奥さんも安心の笑顔になっていました。「お盆には家に帰るよ」と約束もをされ、誤解も解消でき入所生活の励みになり、介護指導を夫婦で意欲的に受けられていきました。

今回のケアでは、ご利用者が入所中、面会を含む「ご家族との共有する時間」の大切さと、その時間を多職種のチームで取り組むことで、MVVの「ご本人には輝きの一日を」と「ご家族には安心を超える感動を」を提供できた事例です。